



那吉の手紙

新馬 五回きり三

大也 知見の
ある

西より深く、山中でアイクワウの塔とりの
 を見た覚えがある、小春月の暖かい日であった、
 アイクワウとりの小供には寝に思はれた名が却
 て忘れがらぬ、去年の夏休みに房州に旅行して、
 此所へつた引も思はれた那吉の観音を見て、こゝで
 はアイクワウの塔とりの近邊にある筈だと思つた
 所の者に聞いたら、三回里隔をつた存堂とりの
 所に阿育王の塔があるのを聞いた、小供の時は、
 三人で其の塔を拜し、下りは南々と歩行つて、ち
 らりほろりと人家の煙をある所を通つた、雲の
 霧は軒並に手紙りを突つて居つた、霧をよん
 は欲しくつてくうが憂かつた、その霧が立寄る
 所へであつたやうに思はれるのが不思議だが、
 二三箇所に居たのを、霧をよんに同様に居た
 のは何處でも御座つた、
 男は女のかわり知れぬ、併し其の時の結核
 はそれだけ、結核の病は人々を苦しめて
 身に染み居る、さうな気がする、
 行きゆく三人は海邊に出た、風が冷たく
 もなくぬく風、なほあつた、その日私共が

